2017年8月に発生した
焼岳の噴気活動における対応

観測技術グループ　中本 幹大

- 目次

1. 噴気活動の概要

2. 観測所に到着してからの対応

3. 普段の業務と対応の関わり

4. まとめ

- 噴気活動の概要

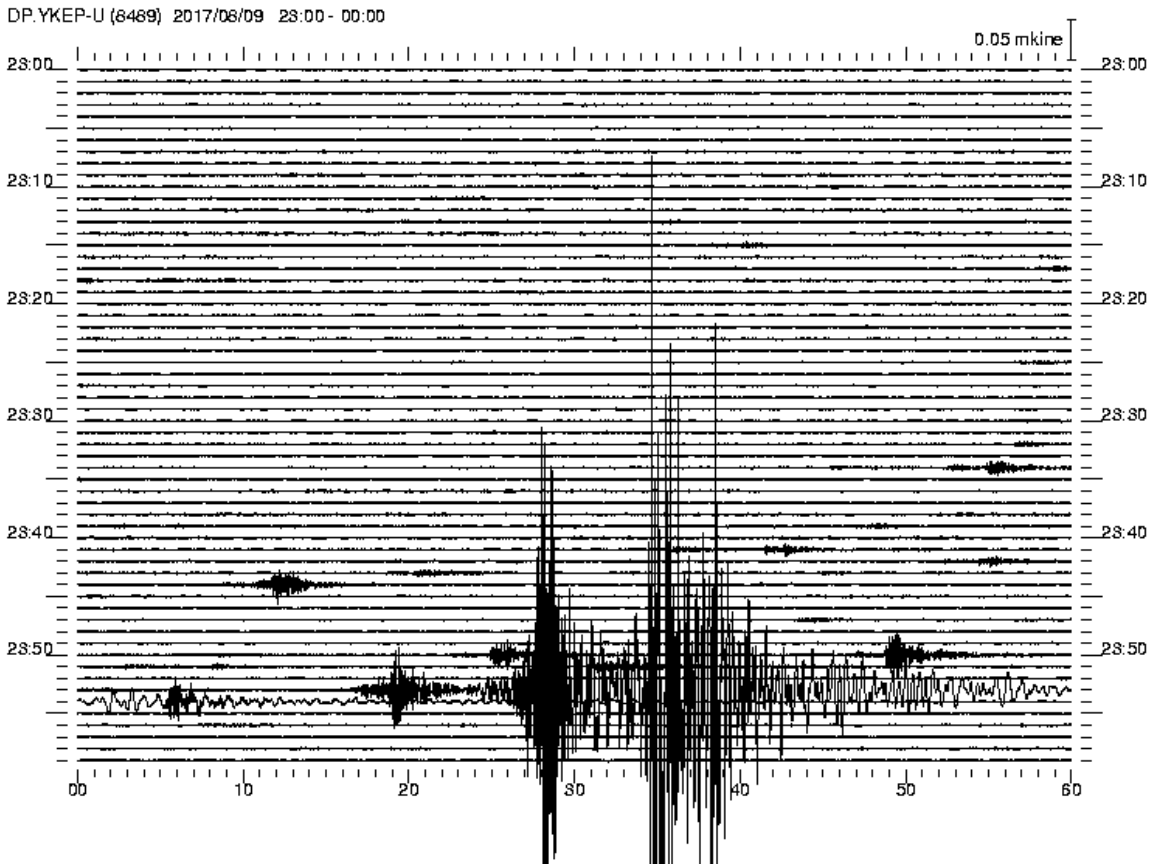
・2017年8月9日23時50分から8月10日2時ごろに発生

観測事項：空振6回(速報値)、白い噴気が100m程度まで上昇(普段は噴気の見られない場所で発生)

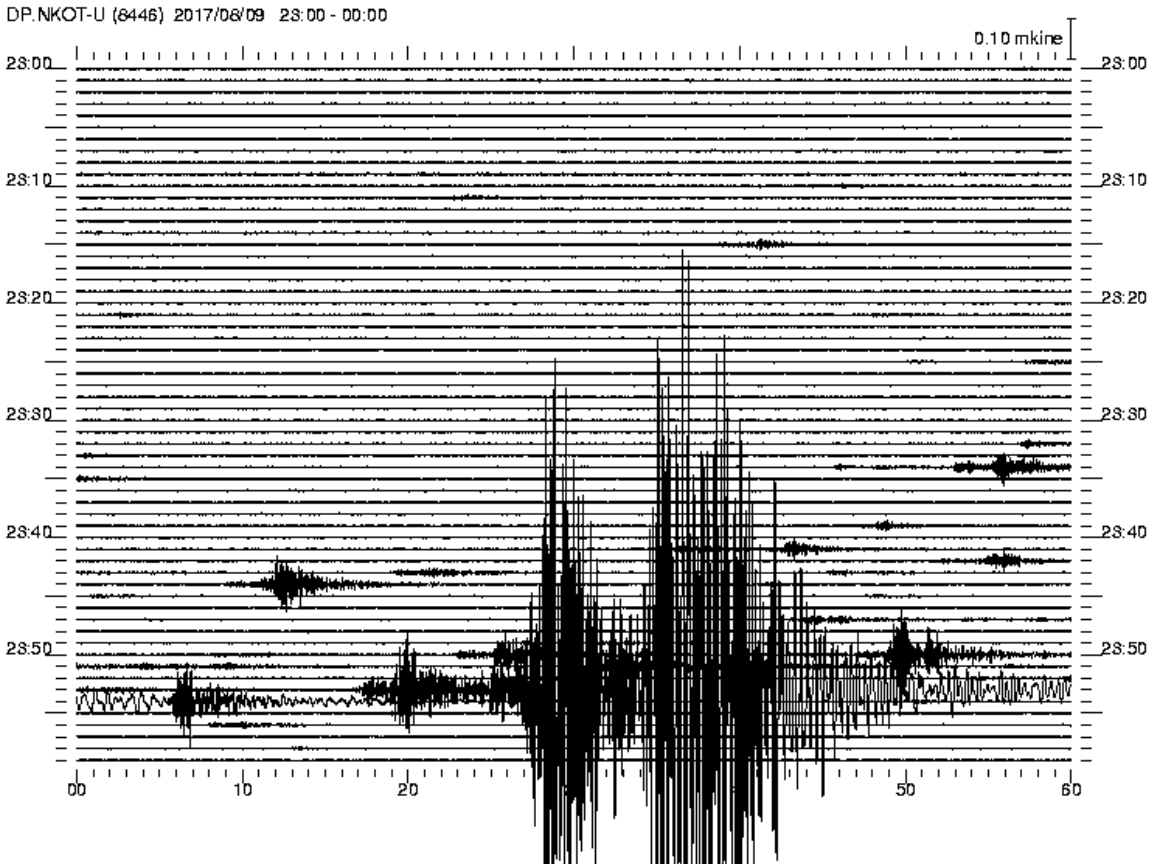
出典：気象庁　焼岳の火山活動解説資料
(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html)
焼岳 山頂の西側で観測した白色噴気と発生位置（赤丸）

- 噴気発生時の地動モニタ画像

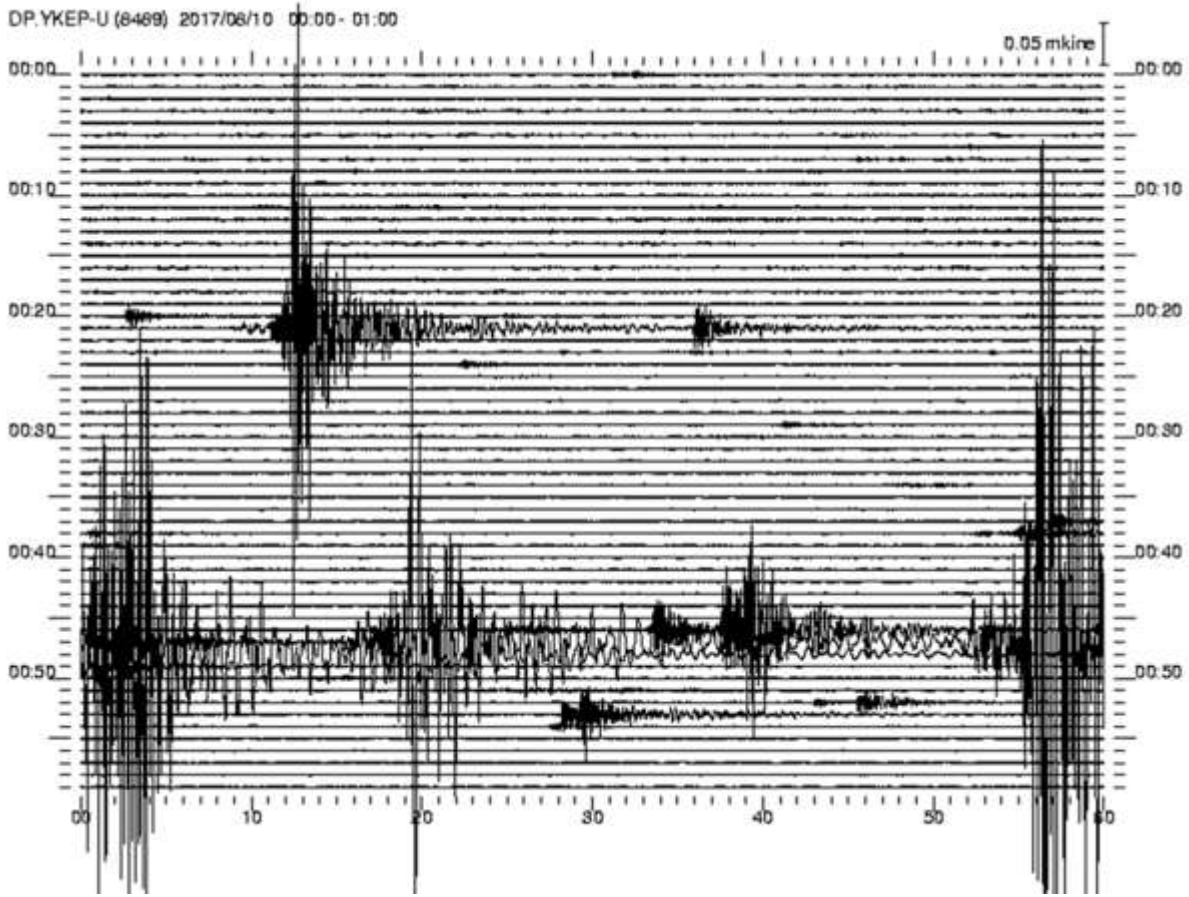
焼岳山頂観測点　上下動



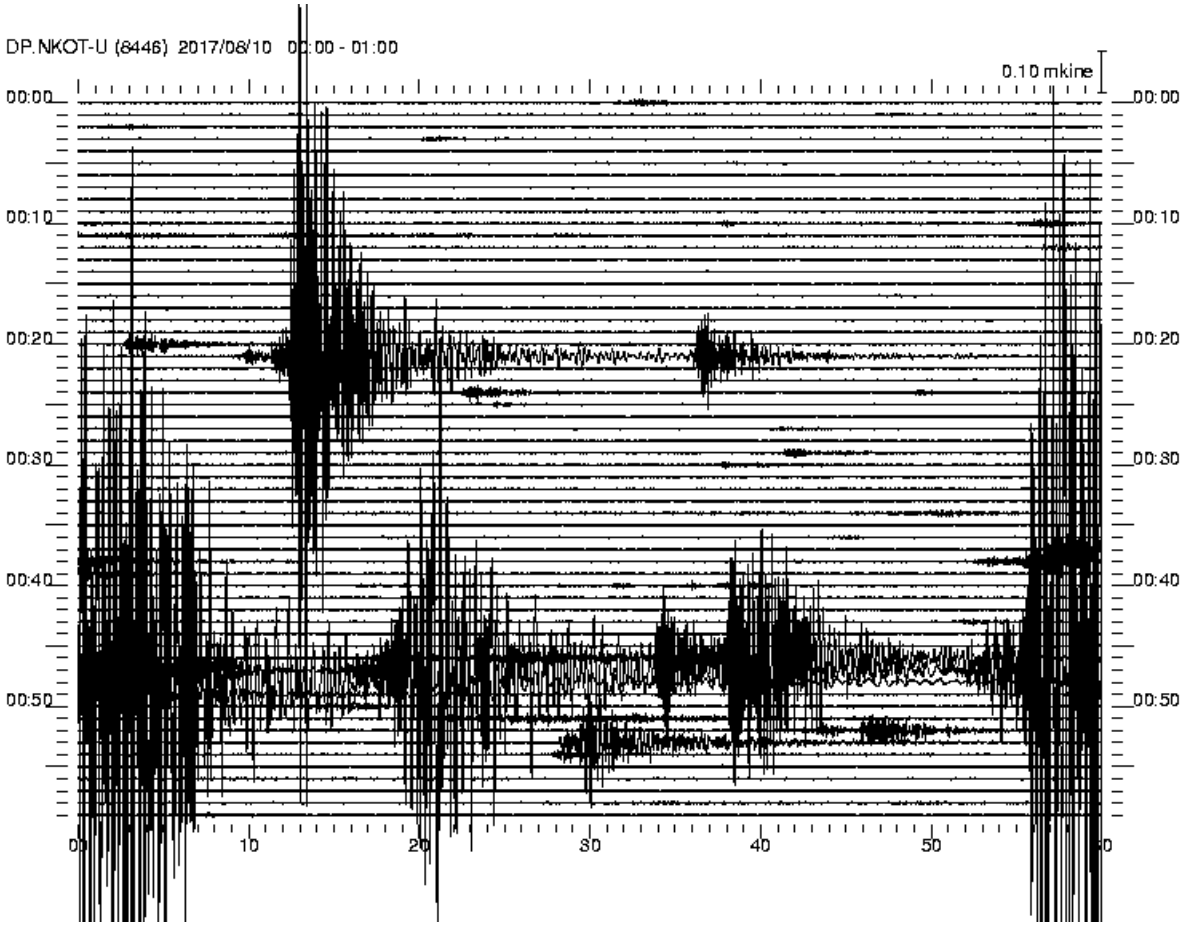
中尾峠観測点　上下動



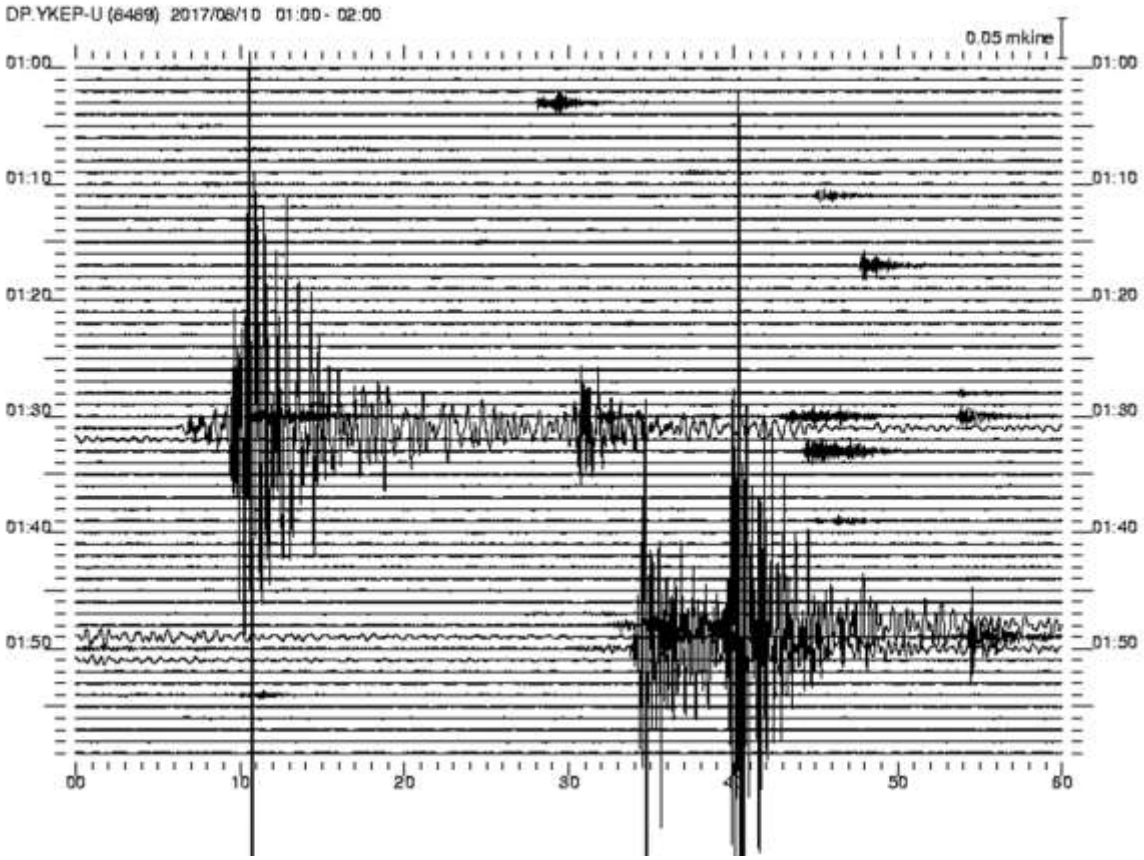
焼岳山頂観測点　上下動



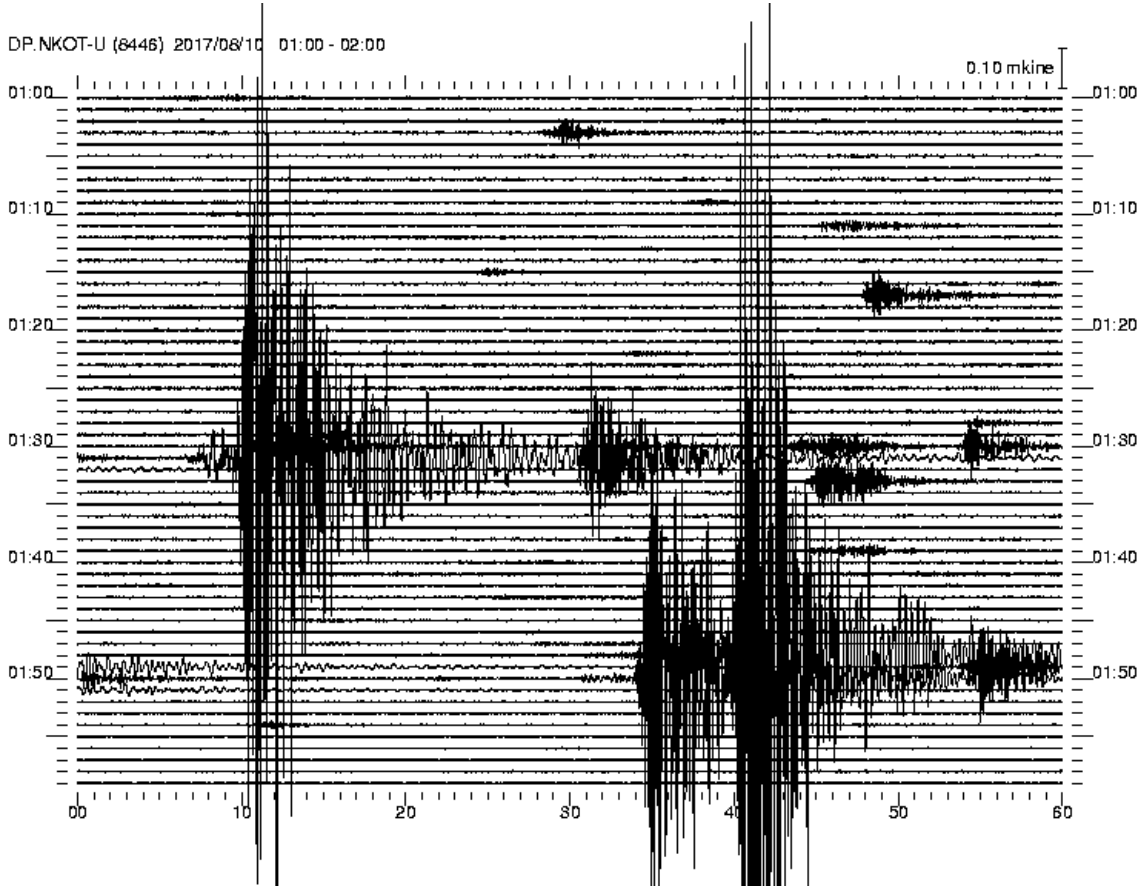
中尾峠観測点　上下動



焼岳山頂観測点　上下動



中尾峠観測点　上下動



- 観測所に到着してからの対応

AM 6:00 教員から電話があり噴気活動発生の連絡を受ける。

↳ 通常の勤務時間で良いと指示を受けたためいつも通りに出勤。
普段の業務に加え、電話対応と情報収集をするよう指示を受ける。

【１】マスコミ関係からの電話対応

NHK、中京テレビ、テレビ朝日、名古屋TV、東海TVなどから取材申し込みを受ける。

➡ 教員に報告後、対応をお願いする。

【２】観測データのチェックと情報収集

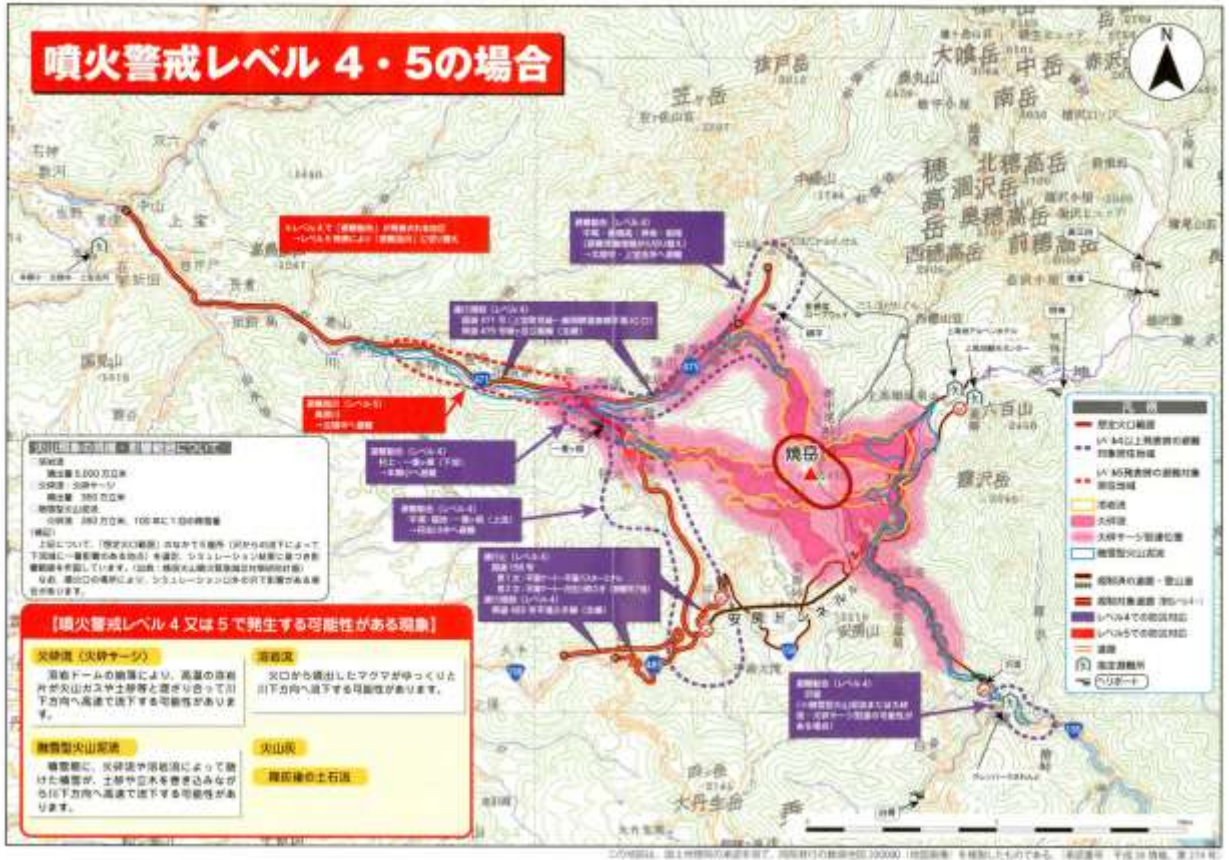
データチェックを逐一する。気象庁の火山解説情報とネットニュースやSNSなどで情報収集する。

➡ 地震波形の異常や噴火に関する情報があればすぐに報告。
情報共有を最優先に考える。

【３】防災マップで警戒レベルごとの避難区域などを確認

身の安全を守るため。地域住民と観光客からの問い合わせの可能性。

警戒レベルがどの程度になるとどの範囲まで規制されるかなど、
問い合わせがあったとき、答えることができるように把握しておく必要がある。



出典：岐阜県高山市発行　焼岳火山防災マップ(http://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000013/1000080/1005964.html)

- 普段の業務との関わり

ルーチンワークとして、毎日以下の観測データをチェックしている。

・上宝観測所系の地震波形
・傾斜計
・プロトン磁力計
・温度計

噴気発生時のチェック項目と同じ

チェック時に気をつけていること・・・

データ通信が正常にできているか

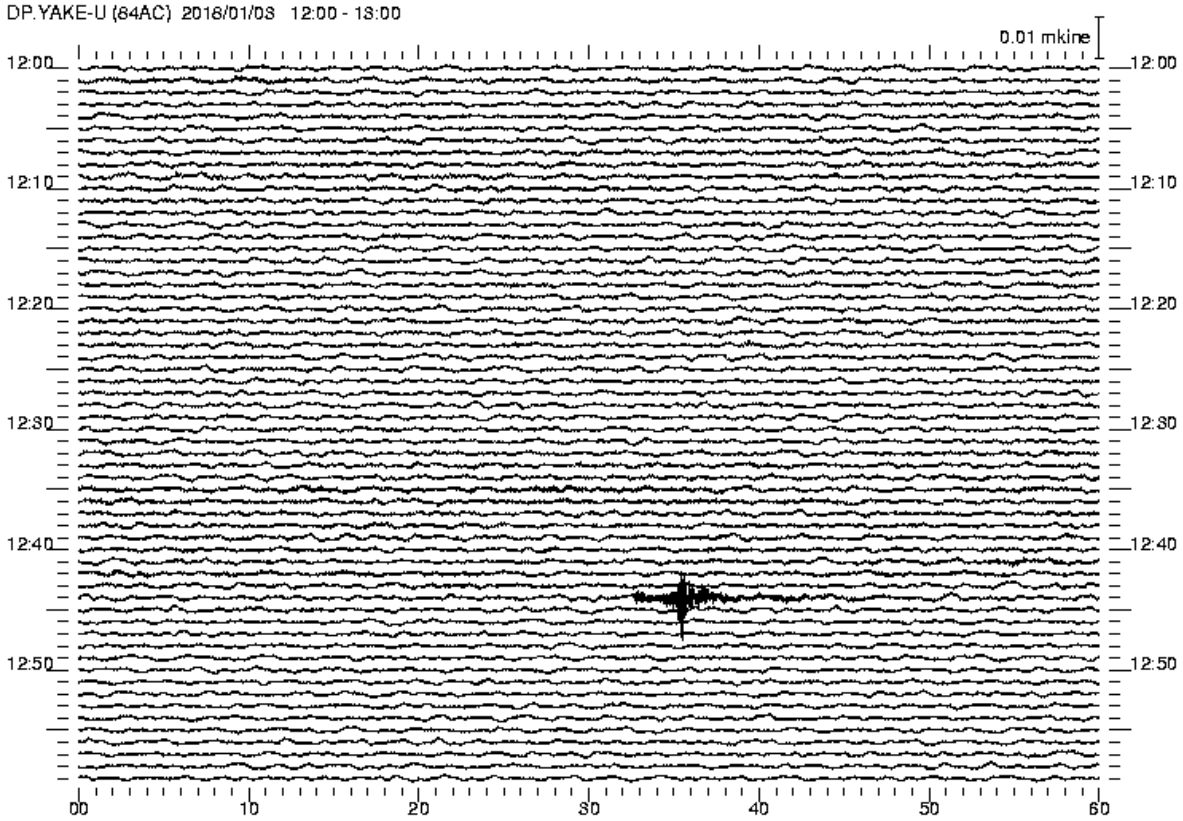
地震波形におかしなところはないか → 教員に報告し、指示を仰ぐ

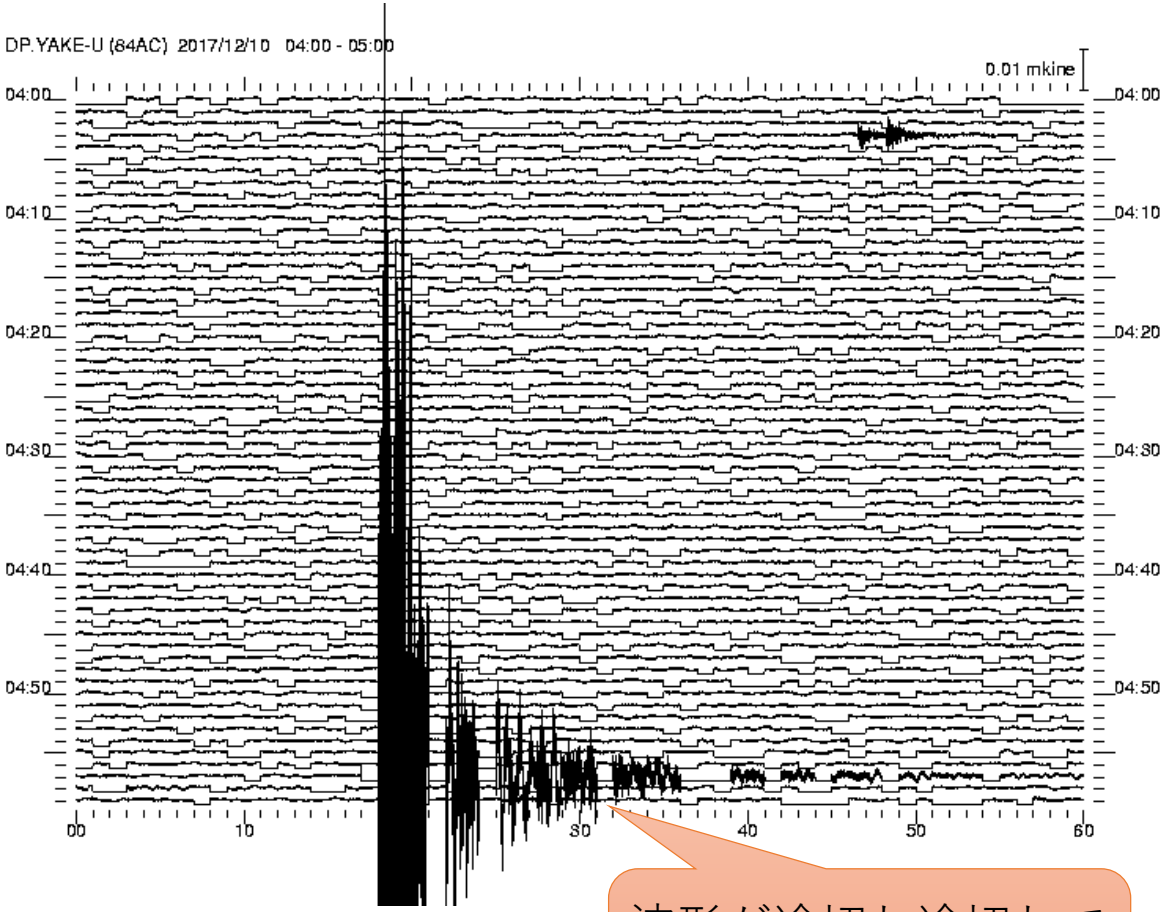
雨や風が強いときにはどんな波形になるか

噴気活動発生時も普段している業務とあまり変化がない

地震波形データの比較：異常が発生したとき

焼岳観測点　上下動：HUB障害発生時

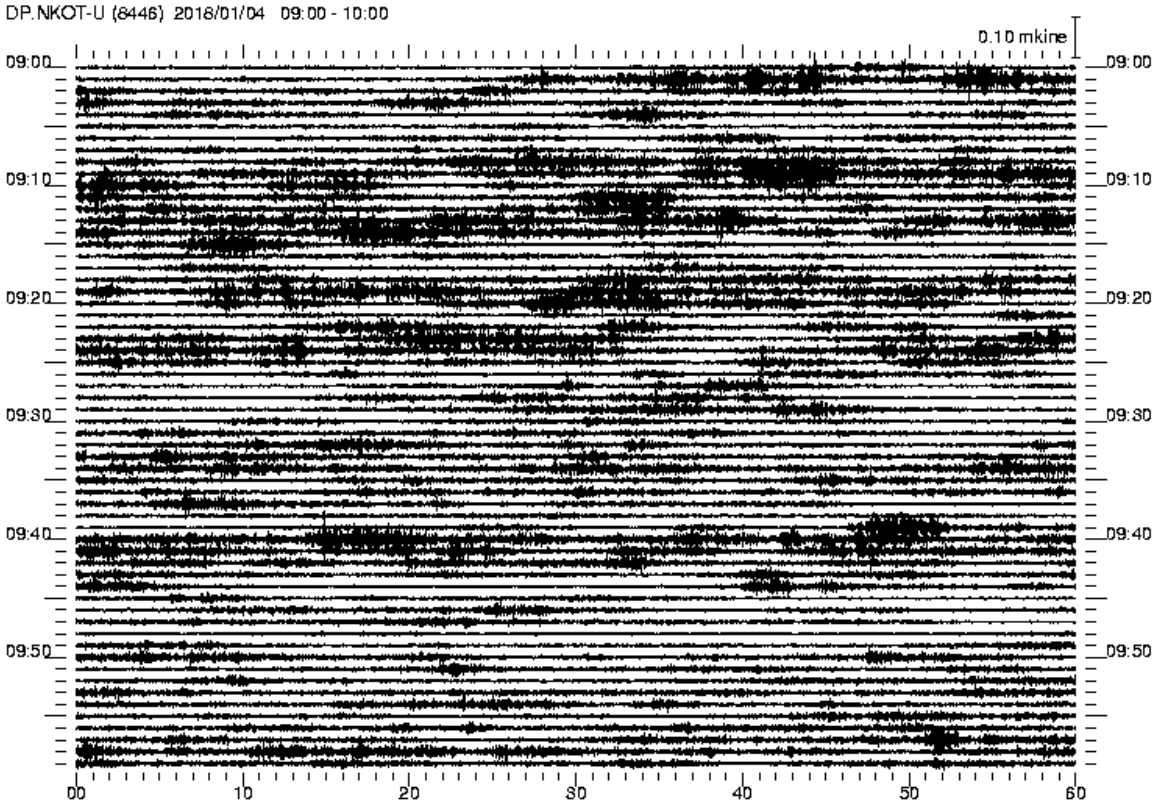


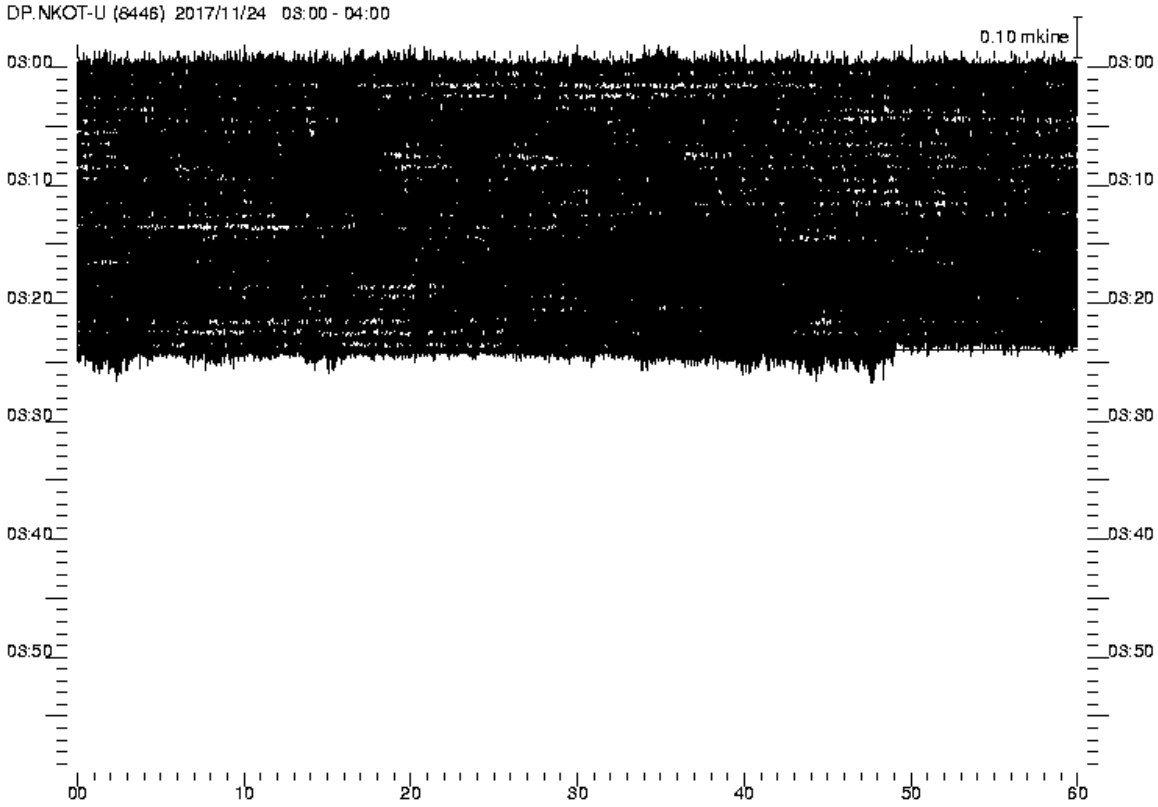


波形が途切れ途切れで
確認しづらい

※　左図：正常時　右図：異常時

中尾峠観測点　上下動：電力供給低下による欠測





原因を切り分け改善し、正常な波形を示すようにする

- まとめ

今回の噴気活動発生時における対応を振り返って・・・

突発的に活動が発生した場合、自分にできることは普段の業務の延長

➡ 情報の発信は教員がする。
確かな情報を得るためには観測点のメンテナンスが必要不可欠。

異常なデータを記録することだけが重要ではない

➡ 普段の地震波形を知っておかないと、異常かどうかわからない。
普段のデータをいかに意識的にチェックするかが大切。

観測所業務の重要性を再認識

➡ 研究としての観測だけではない。
観測データが地域の防災に直接つながっていることを意識する。

普段している業務の精度を上げることが活動発生時の対応を向上させる

ご閲覧いただきありがとうございました。

焼岳山頂観測点